

# 北海道聖書学院 2021年度 3学期(11/16~3/12) 聴講のための授業案内

(冬休み12/11~1/13日)

1月14日(金)授業再開

曜日	科目名	講師・教師	授業内容
火曜日	ギリシャ語釈義①(統語)	小澤和男師	ギリシャ語の初級文法を学んだ学生は新約聖書の原文にあたりながら、ワレスの文法書を用いて、より深く、より正しく読む知識を積み重ねていきます。
	キリスト教史③	川崎憲久師	「知識もなしに言い分を述べて、摂理を暗くするこの者はだれか。」(ヨブ記38:2) 歴史を知ることを通して神の摂理に対する信仰の目が養われます。
	エレミヤ書	松元 潤師	神に背き続けるイスラエルの民が捕らわれの身に堕ちていく時代に生きたエレミヤが、神の預言者として、神のさばきと救しを語りつつ、神の命令に従って行動したことを経験を通して、神の不変の愛と真実を知ること。
水曜日	ヘブル語文法①	松元 潤師	旧約聖書の原典であるヘブル語聖書を読み、理解するための基礎的な学びです。初めての方は「今学期」からご参加ください。
	牧会書簡	吉永光生師	牧会書簡と言われるパウロの手紙の中から特にテモテへの手紙に焦点を当てて学びます。牧会者のあり方や牧会上の問題に導きと解決の光を与えるこの手紙について、みことばに丁寧に聞きながらその光を探ります。
	旧約聖書通論③	吉田浩二師	創世記から小預言書までを3学期かけて学びます。各書を自分で読むことができるようになる「鍵」をお渡ししたいと思います。
木曜日	人間・罪論①	松元ハンナ師	聖書の示す人間観を学びます。神に似た者として造られた人間でありながら、神との交わりを拒み、歪曲している罪の問題を組織神学の視点から捉え、人間とは何者なのかを共に考えます。
	北海道キリスト教史	吉永光生師	日本教会史からさらに焦点を絞りに学院が置かれている北海道のキリスト教史を学びます。伝道・教会開拓・教会形成がどのようになされ、社会に影響を与えてきたかを学ぶことで、今後の宣教の手がかりを掴むことを目指します。
	聖霊論	水草修治師	このクラスでは、聖書から第一に聖霊はどなたかということ、第二に聖霊のみわざを教理体系・教会史を意識しつつ学ぶ予定です。また聖霊理解について今日的課題をいくつか扱います。
金曜日	聖書地理	吉田麻希子師	聖書の時代のイスラエルの地理を、地図や模型を使って学びます。
	新約聖書緒論	杉本 潤師	新約聖書が27巻に至った歴史や本文決定に至る背景(本文批評)を見、私たちの手にある新約聖書が神の言葉であることの意味を深めます。(初級ギリシャ語文法を習得した人が履修できます。)
土曜日	新約聖書通論③	吉田麻希子師	新約聖書の各巻の背景を理解し、その内容を把握するための学びです。

※1 聴講を希望される方は、聴講願書にご記入の上、学院へご提出ください。所属教会の責任者の推薦が必要です。

(聴講願書は、同封いたしました。足りない場合は、コピーしてください。)

※2 聴講料は1科目につき1学期間15,000円です。3回に分割して納入することもできます。(1ヶ月5,000円×3回)

複数の科目を聴講し、1ヶ月の聴講料が20,000円以上になる場合は、20,000円を超過した分は免除となります。